

平成28年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(河内地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成28年度 第4回
まちづくり懇談会《河内地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《河内地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成28年8月2日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 河内地域自治センター
- 3 参加者数 40人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，河内地域自治センター所長，河内地域自治センター地域づくり課長，都市基盤保全センター所長，広報広聴課長

5 懇談内容

（1）地域代表あいさつ

河内地区まちづくり協議会会長

（2）市長あいさつ

（3）地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	かわち地域ビジョンの策定とネットワーク型コンパクトシティの実現について （1） さぎそう河内号の済生会への乗り入れについて （2） 公共交通ネットワークを活用した生涯学習教育ルートの確立について	（1）交通政策課 （2）生涯学習課
2	平成24年7月24日の懇談会の未解決事項について （1） 宮っ子ステーション運営施設の設置について （2） 岡本駅西土地区画整理事業地でのごみステーションについて	（1）生涯学習課 （2）ごみ減量課 北部区画整理事業課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
No.	要 望	所 管 課
市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために (1) 地域産業の創造性・発展性を高める (2) 商工業の活力を高める (3) 農林業の付加価値を高める (4) 魅力ある観光と交流を創出する		
1	白沢公園の水車について	農業企画課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	宇都宮市の各種計画に尊厳を踏まえた取組み姿勢について	みんなでまちづくり課
2	奈坪川沿いの歩道整備について	道路保全課
3	L R Tに係る駐車場について	L R T整備室
4	河内地域自治センターへのA T Mとポストの設置について	自治振興課
5	河内地域自治センター跡地の利活用について	自治振興課
6	防犯灯設置, 市施設照明のL E D化について	生活安心課, 道路保全課, 公園管理課
7	体育館のエアコン設置について	学校管理課 スポーツ振興課

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	かわち地域ビジョンの策定とネットワーク型コンパクトシティの実現について
-----	-------------------------------------

現在、宇都宮市は2050年を見通した「市人口ビジョン」及び「市・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進する「ネットワーク型コンパクトシティ」をまちづくりの基本としている。特に、需要や地域特性に応じた、鉄道やバス・乗合タクシーなどが効率よく連携した公共交通ネットワークの構築がこれからの課題であると考えている。

河内地区では、自分たちのことは自分たちで行っていこうということで、今年3月に地域ビジョンを策定した。地域ビジョンのキャッチフレーズは「自然と人を大切に絆で結ぶ楽しい河内」であり、これを実現するために地域ビジョンを作った。この地域ビジョンと市が進めている様々な計画等が一致しなければならない。そこで、かわち地域ビジョンを前進させるため、次の2点について伺う。

1点目は、さぎそう河内号についてである。

さぎそう河内号は、今年6月に利用者が1,000名を超えた。そこで、以前から様々な要望をいただいております。さぎそう河内号の済生会への乗り入れについて検討をお願いしたい。

2点目は、公共交通によるネットワークを活用した生涯学習教育の確立である。

河内地域内デマンドとJR岡本駅を經由し、JR宇都宮駅からテクノポリス、清原工業団地、芳賀工業団地に行くルートを創ることである。

そうすることで、多くの住民が生涯教育の場として利用できる交通網ができることになると思う。

生涯学習教育のプログラムもしくはそのような学習の機会を設けていけば、必ず人が増え、人が学び、人が集まるので、私達が目指している地域ビジョンに役立てることができると考えている。

宇都宮には清原工業団地があり、その北には芳賀工業団地がある。出荷高が全国で1位、2位を争う優れた企業が立地しているので、LRT等の公共交通機関を活用して学校教育、児童教育の場で、児童・生徒の訪問をさせるとともに一般の方々も社会教育の一環として、工業等を学びの場とし、産業の素晴らしさを学ぶことで宇都宮市民としての誇りを持たせることができると思う。

また、それらの教育の成果として、宇都宮市民としての誇りを持ちながら、市外・県外へ出て行った人達がUターンして戻ってきたり、誇りを持った市民からの影響によりIターンする人が増えることにより、本市は更に様々な分野で脚光を浴び、本市の人口増加や活性化に繋がると思っている。

宇都宮市がモデルになるようなプログラム教育を考えていただきたいと思う。

(1) さぎそう河内号の済生会への乗り入れについて

回答	所管課：交通政策課
----	-----------

【市長】

地域内交通は本市郊外部において導入が進んでおり、宇都宮市全体に公共交通の網をかぶせていきたいと考えている。まず、地域内交通を導入し、既存のバス路線の拡充や見直しを進めて行くと共に、基幹公共交通であるJR線、東武線、そして東西にLRTを設置して、乗り換えをすれば公共交通で宇都宮全体を移動することができるまちをつくっていききたいと考えている。

「さぎそう河内号」についても、地域の皆様のお力をいただき、導入することができた。地域内交通は、鉄道やLRTによる基幹公共交通、バスによる幹線公共交通へのアクセスを補完する支線公共交通である。その運行範囲については、既存の公共交通が衰退しないようにしなければならない。地域内交通があまりにも地区外に出てしまうと現在のバス路線などが影響を受けてしまうので、役割分担を上手く持ち合わせなければならないと考えている。

そうした中、済生会宇都宮病院への乗り入れについては、鉄道、バス、既存の公共交通との役割をもう一度、整理をしていきたいと思う。

合併前に上河内地区を運行していた「ユッピー号」も運行ダイヤやルートの見直しを行い、済生会病院線を新設した。路線の新設にあたり、「さぎそう河内号」からも乗り換えが出来るように、田原コミュニティプラザを経由するルートに延伸することで河内地区と「済生会宇都宮病院」を結ぶ路線を確保してきた。

また、「さぎそう河内号」の目的施設の設定については、地域の皆様の声をいただきながら、随時見直しを行ってきたが、運行開始から2年が経過したことから、全体的な運行計画の改善や利便性の向上を図って行く中で、改めて「済生会宇都宮病院」も含めた地域ニーズを見極めていく必要があると考えている。

「済生会宇都宮病院」の「さぎそう河内号」の乗り入れについては、その地域のニーズも踏まえながら、引き続き、交通事業者と意見交換を行っていく。そして今後、バスネットワークを再現していく中で、「済生会宇都宮病院」へのアクセス向上を図れるよう、バスとの乗継割引などの利便性向上についてバス事業者と検討をしていく。

(2) 公共交通ネットワークを活用した生涯学習教育ルートの確立について

回 答	所管課：生涯学習課
------------	------------------

【市長】

地域の産業や歴史、文化をきちんと学び、後世にも伝えていくことは大切なことであり、人づくりという意味でも重要な事業の一つである。

小学校における社会科見学や遠足、各生涯学習センター等で実施している生涯学習講座において、LRT等の公共交通機関を利用して、清原工業団地に立地する企業などを実際に訪れ、本市の産業の素晴らしさを学ぶことは郷土愛の醸成や本市への誇りの醸成に繋がると考える。

御提案のLRT等公共交通と生涯学習が連携した学習プログラムについては、今後、

生涯学習に対する住民ニーズを踏まえながら、LRTの開通により生まれる市民の移動のしやすさを生かした魅力ある講座の企画を検討していきたい。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	平成 24 年 7 月 24 日の懇談会の未解決事項について
------------	---------------------------------------

(1) 宮っ子ステーション運営施設の設置について

学校から離れた所にある子どもの家の整備について、地域の意向や実情をふまえ、市全体での優先順位など総合的に勘案しながら、検討していくとの答えだったが、その結果を報告してほしい。

田原小学校の児童は、田原コミュニティセンターに併設された児童館まで、小学校から距離が約 800メートルあり、その間、市道 63号線というかなり狭小で歩道のない、車の通行量が多い道路がある。そこを横断し、田原コミュニティセンターまで父兄が送っていくという状況であり、そこに今度、田原コミュニティセンターと市道 63号線の間バイパスができる。この道路は車が時速 60キロメートルから 80キロメートルのスピードで走行し、車両も多く走行することになるので、そこを子どもが横断するのは大変難しいことだと思う。

そうした危険な場所に子どもの家があるのは大変危険を伴うので、それを改善していただきたい。

また、田原西小学校については、車両が多い県道上小倉・岡本線を通り、グリーンタウンの中心部に行くまで 1.2キロメートルの距離がある。そちらも出来るだけ早めに検討していただきたい。

(2) 岡本駅西區画整理事業地でのごみステーションについて

岡本駅地区周辺の整備が進んでおり、きれいに整備されているが、ごみステーションの確保が難しい状況である。一般のデベロッパーが開発する場合、ごみステーションは市の指導があるということだが、デベロッパーが自主的にごみステーションをつくり、大体、各団地にはごみステーションがついていると思う。岡本駅周辺も法律的にはいかがなものかと思うが、今のうちに設計をしていただき、ごみステーションを設置していただきたい。

現在は、道路の上にごみステーションを設置している状況である。網を張っておくと、子どもが通過する時に大変危険なこともあり、今では交通事故がずいぶん減ってきたということだが、危険なものはないほうがよいので検討をお願いしたい。

(1) 宮っ子ステーション運営施設の設置について

回答	所管課：生涯学習課
-----------	------------------

【市長】

子どもの家については、通所時の児童の安全確保を図ることは大切なことであり、基本的に学校敷地内に開設をしている。旧河内町においては、児童館と一体的に同事業に取り組んできたという経過があったので、田原小においては、学校敷地外の児童館と併設した施設で運営をしてきた状況である。

まず、平成24年の懇談会での御提案に対する進捗状況については、学校敷地内で活動している放課後子ども教室に、子どもの家を利用する児童が参加する際の安全確保のために放課後子ども教室に安全管理員を追加配置し、移動の際の体制を整えているところである。

次に、新たな施設整備については、平成24年にもお答えしたとおりだが、市全体の子どもの家等施設の状況を総合的に勘案しながら取り組むこととしており、面積基準等を満たすために急を要する箇所から整備を行ってきた。

平成27年度から開始された「子ども・子育て支援新制度」により、6年生まで受け入れることが出来るようになったため、田原小子どもの家についても、どのくらいの利用児童数があるかを見極めてきたところである。

一方、田原小を取り巻く環境として、県道バイパスの一部開通に伴い交通量の増加が見込まれており、田原小子どもの家については、通所時の児童の安全確保を図る必要があるため、学校敷地内への移転が望ましいと考えている。

移転にあたっては、子どもの家の利用児童数の推移や田原小の学校児童数の状況などを踏まえ、学校の教室などの活用による学校敷地内への移転について、地元の皆様や利用者の皆様の意見を伺いながら対応していく。

(2) 岡本駅西土地区画整理事業地でのごみステーションについて

回 答	所管課： ごみ減量課， 北部区画整理事業課
------------	------------------------------

【市長】

岡本駅西土地区画整理事業地のごみステーション確保、維持管理については、地域の皆様、自治会の皆様にお力をいただき感謝申し上げます。

本市においては、開発団地のごみステーションの設置について、開発業者が自主的に判断をして設置の申請をしていただいているので、市では事前指導は行っていないところである。市が実施している土地区画整理事業においては、市によるごみステーションの設置は行っていない。

今後についても、周辺の土地利用等の計画や整備時期などの情報を幅広く提供していくので、地域のリサイクル推進員の方と相談していただき、利便性、安全性を考慮したうえで地域の皆様の話し合いによって、新たな設置場所などを検討していただきたい。

なお、場所の確保が難しい場合には、通行上の支障がないこと、道路利用者の安全確保ができることを条件に、一時的に集積場所として道路の利用を認めている。

ごみ減量課に相談いただければ、一緒に対応をしていきたいと思うので、まずは相談をいただきたいと思う。

テーマ	平成 24 年 7 月 24 日の懇談会の未解決事項について（再質問）
------------	--

(1) 宮っ子ステーション運営施設の設置について

田原西小も同じような状況なので、田原西小もよろしくお願ひしたい。

回答	所管課：生涯学習課
-----------	------------------

【市長】

田原小、田原西小に限らず、全ての小学校について、安全性のため、学校敷地内が一番良いと考える。田原西小についても学校関係者や地域の皆様、利用者の皆様と協議をしていきたい。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために (1)地域産業の創造性・発展性を高める (2)商工業の活力を高める (3)農林業の付加価値を高める (4)魅力ある観光と交流を創出する
------------	--

(1) 地域産業の創造性・発展性を高める

河内地区をはじめとする、広大で肥沃な農地や豊富な水資源を有した、農業にとって恵まれた環境に加え、市東部には従業員数が9,000人を超える国内最大規模の内陸型工業団地を有するなど、農業・商業・工業がいずれも中核市において、高い水準を維持している状況である。

今後とも、地域特性を活かすとともに、異業種を組み合わせた新たな取組など、時代の変化に併せて多様化するニーズへの対応を図りながら、本市の産業を発展させていくことが重要である。

河内地区には、河内工業団地と白沢工業団地が立地しており、2つ合わせた製造品出荷額等が400億円を超えるなど、本市工業の一翼を担っていただいていると認識している。

本市としては、工業団地に立地する企業を定着させていくことが重要であると認識していることから、今年度から企業に対する建替えを補助に加えるなど、企業誘致や

企業の定着を促しているところである。

これらの理由から、目標として、「本市の農業、商業、工業において、相互に新たな関係や連携が生み出され、地域資源の有効活用や人材の交流が活発化して、地域産業の創造性・発展性が高まっています」を望ましい姿として設定した。

目標達成に向けた主な事業は、イノベーションが期待される産業の育成、起業家の集積・成長支援、就業支援の充実などである。

雇用対策の推進として、若者向け就職応援ガイドの作成、女性再就職マッチング事業の実施を事業としてあげている。

主な施策指標は、「市内事業所数（製造業）」の増加などである。

（2）商工業の活力を高める

本市の状況としては消費者のライフスタイルの変化やニーズの多様化、ICT等を活用した技術革新の進展など、商工業を取り巻く急速な環境変化に、迅速かつ的確に対応することが求められている状況である。

このような中、本市の商工業の持続的な発展を実現するため、商工業者の活力を高めることが重要である。

河内地区においては「うつのみや市商工会」において、これまで「プレミアム商品券」を独自に発行するなど、商店街の振興に取り組んでいただいている。

本市においても、中心商店街の活性化や地域のコミュニティ創出などを目的に、商店街みずからが実施する空き店舗活用に対する助成など、中心市街地のにぎわいづくりに取り組んでいるところである。

これらの理由から、目標として、「社会経済環境の変化に柔軟に対応し、「ひと」、「もの」、「情報」等が活発に行き交い、地域経済が活性化しています。」を望ましい姿として設定した。

目標達成に向けた主な事業は、魅力ある中心商業地の創出、商店街活性化事業の促進、高度技術開発の促進、などである。

特に、中心市街地活性化の推進では、中心商業地への出展等を支援している。

また、中小企業融資制度の活用促進では、中小企業運転資金など融資制度を充実させているところである。

主な施策指標は、「中心商業地の空き店舗数」の減少などである。

（3）農林業の付加価値を高める

トマトや梨、アスパラガスなど、安心・安全でおいしい農産物のブランド化などによって、本市の農産物を全国にPRし、「農業王国うつのみや」を推進することが必要である。

特に、収益性の高い作物の産地化に対する支援や、意欲ある担い手の確保や育成の

ため、新規就農者の農地確保や機械・設備の導入に対する助成など、本市農業の持続力の向上に取り組んでいくことが重要である。

そのような中、河内地区においては、「アスパラリン」や「にっこり」など、ブランド化した農産物が栽培されている。

また、逆面地域では、農薬や化学肥料を減らした「フクロウ米」を栽培しており、環境に配慮した取組として、農林水産大臣賞を受賞するなど、特色ある取組であると感じている。

本市としても、水田を活用した多様な産地づくりを推進するとともに、宇都宮産米を1歳6か月児健診時に配布する「はじめてごはん事業」に取り組むなど、米消費の拡大を推進しているところであり、今後は、T P Pを見据えた本市農業の競争力を強化するため、地域ぐるみの営農体制づくりを推進するとともに、農業者と販売店等のマッチングなどにより、農産物のブランド力向上と国内外への販路拡大に取り組んでいく。

1歳6か月児健診時にお米1.8キロを無料で配布しているが、更に今年の4月からは、小学校1年生と中学校1年生を対象にお米を無料で配布する取組を進めている。

「農業王国うつのみや」という大きな旗印を掲げたが、農家の方々と一体となり、進めていきたいと思っている。

これらの理由から、目標として、「農林業を支える多様な担い手が育ち、生産力や産地力の向上、良好な農林環境の形成など、総合的に農林業の付加価値が高まっています。」を、望ましい姿として設定した。

目標達成に向けた主な事業は、意欲ある担い手の確保・育成、農産物のブランド化推進、農資源・農村環境の保全推進などである。

主な施策指標は、意欲や能力のある農業者が農業経営改善計画を作成し、市町村に認定された農業者である「認定農業者数」の増加などである。

(4) 魅力ある観光と交流を創出する

今年の上半期の外国人旅行者は、1,171万人となり、過去最高を記録した昨年を上回るペースで増加している。そのような中、外国人の旅行の目的は、東京から、富士山、名古屋、京都、大阪を巡る「ゴールデンルート」から、「日本らしさ」、「地域らしさ」を体験、堪能できるものに変化してきている。

本市においては、餃子、カクテル、自転車などがあり、これらの魅力を高め、外国人旅行者を増やしていくことが重要である。

河内地区においては、江戸から明治時代の景観を残している「白沢宿」があり、白沢宿を通る旧奥州街道の両側には用水が流れ、水車が設けられるなど、風情を感じるまちなみとして、市の景観形成重点地区に選ばれている。また、全国新酒鑑評会において金賞を受賞している澤姫などがあり、本市としても、こうした貴重な地域資源を

活かした観光振興に取り組んでいく。

これらの理由から、「新たな資源が発掘、活用され本市の観光資源の価値がさらに高まり、市民も自らの地域に誇りを持つことで、多くの人に宇都宮を訪れ楽しんでもらえるような、魅力ある観光と交流が創出されています。」を、望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、観光セールスの強化、戦略的観光事業の推進などである。

ジャパンカップサイクルロードレースが毎年秋に開催されるが、今年は25周年になるので、ロードレース及びクリテリウムについて更に力を入れ、国外も含めてPRをしていきたい。

主な施策指標は、「来てよかった」、「また訪れたい」と感じている来訪者の割合の増加などである。

発言 1 白沢公園の水車について

奥州街道の白沢宿の両側に水路が流れており、水車があるが、その東側に市が管理をしている白沢公園がある。そこにも大きな水車が2台あった。そのうちの1台は広報うつのみや6月号の表紙になっているが、これが白沢宿と併せて非常に素晴らしい景観をつくっている。白沢宿の会というものがあり、「水車の里」としてこの辺りの維持を進めていきたいと思っているが、白沢公園の水車が1台、老朽化で壊れ、撤去されたままになっている。市の公園なので、何とか再現をしていただきたい。

白沢宿と白沢公園を「水車の里」として広めていければ素晴らしいと思う。

白沢公園の入口と、南側と北側に以前は大きな水車がたくさんあったらしい。調べてみると、地域の農家の方々がそこで精米していたらしい。突発的に水車をつくったわけではなく、もともと水が豊富で水車が使われてきた地域である。何とか水車の復元をお願いしたい。

回答 所管課：農業企画課

【市長】

宇都宮には、日光街道と奥州街道の5街道のうちの2つがあり、当然、その特徴を生かしていくべきである。このような景観を維持、保全、整備をしていくわけだが、「水車の里」について、今までの事情や歴史を一度ひも解かせていただき、問題を整理して、しかるべき公園のあり方やまちづくりにどう繋げることができるかを調べるとともに、会長をはじめ、皆様方の意見を伺いたいので一度検討をさせていただきたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 宇都宮市の各種計画に尊厳を踏まえた取組み姿勢について

行政単独や市民とともに組織する各種表彰規定の中に在職期間等による表彰制度は規則があり、その荣誉に該当した人達は、市民からも尊敬される人々だが、市民総人口からすれば一握りの方々だと想像する。

日頃の目立ちにくい行動、登下校の際の見守り活動、ごみステーションの秩序ある利用指導、自宅前の道路の草刈などを行っている事業名と、その内容や関わっている人を市の行政機関が現状を把握して、各種だよりなどに掲載し、尊敬される、尊敬する気運を醸成することは協働のまちづくりの原動力だと感じる。市長の考えを聞かせていただきたい。

回答 所管課：みんなでまちづくり課

【市長】

市民協働のまちづくりを推進するなかで、行政だけではできないこともあるので、市民の皆様力を借りてまちをつくっていこうと市民協働を推進しているが、御指摘いただいたとおり、頑張っている人は表彰することにより、励みにもなるだろうし、そういう姿を見て「自分も手伝おうか」という気運が生まれることは素晴らしいことだと思う。

市としても、そうした活動や情報を広く周知するために、まちづくりセンターを活用して、自治会等の先進的な事例を取材し、ホームページや季刊誌などで活動情報を紹介している。

また、身近な場所で行われている地道な活動への表彰であるが、市や市の関係団体において「福祉のまちづくり表彰」や「市民憲章表彰」などを実施し、地域における子どもや高齢者の見守り、ごみステーションの清掃やリサイクルの推進などの活動を幅広く表彰し、ホームページに掲載している。

これからも、そうした方々の地道な活動や模範となる活動には積極的にアンテナを高くして、皆様の御意見も踏まえて、表彰やホームページなどでそうした方々を紹介していきたい。

なお、地域の美化やリサイクルの推進を行っている個人や団体は、毎年秋に開催される「もったいないフェア」の会場において感謝状を贈呈させていただいている。

市民の皆様力を借りていることは、非常にありがたいことなので、市としても率先してこれからも進めていきたい。

発言 2 奈坪川沿いの歩道整備について

釜井台団地は、宇都宮環状線の北にあり、奈坪川が流れており、河内地域自治センターの西側の遊水公園が水源になっている。

この川沿いに河内中学校と岡本西小学校があり、岡本西小学校の児童達とこの遊水公園の自然を見たり、奈坪川流域の自然環境の探索をしてきた。

遊水公園には貴重な生き物がたくさんいるので、宇都宮環状線から遊水公園にかけて、奈坪川流域の自然環境の保全や子ども達の自然環境学習をこれからも続けさせていきたいのだが、子ども達の登下校のためや歩行者のための専用道路がない。

奈坪川の西側、海道町に近いほうに自然遊歩道ができればいいと思っている。特に、釜井台団地から白沢街道に抜ける道が以前はあったのが、橋は残っているが、ここは私道だということで通行止めになってしまっているの、登下校する児童・生徒達が歩いたり、自転車で通れるような道として復元してもらえれば非常に嬉しいと思うのでよろしく願います。

回 答	所管課：道路保全課
------------	------------------

【市長】

国道、県道、市道に限らず、子ども達や歩行者、自転車の安全確保は大切であり、ひいては自動車の運転者への安全運転にも繋がると思う。

最も確保しなければならないのは歩行者の安全だと思うが、御指摘いただいた歩道の整備は優先順位を決めて整備をしているところである。

土地買収などが必要な箇所もあり、そういうところは時間がかかるが、市としても全力で道路整備を行っているの、御指摘の箇所も含めて、優先順位はあるが、市としても積極的に進めていきたいと思う。

もし県道である場合は、県へも伝えていきたい。

発 言 3	L R Tに係る駐車場について
--------------	------------------------

合併して10年が経つが、それ以前からL R Tの計画はされており、こうした交通機関が出来ると便利だと思う。私が住んでいるところは河内地区なのでL R Tについての考えは持っていなかったが、最近、広報紙などをじっくり読んでみると非常に重要な所が抜けている。抜けているというか学ばなかったところがある。それは、車を運転して会社に行くと、車の台数が増え、朝夕が大渋滞になり、排気ガスの問題など様々な問題が出る。それを解消するために宇都宮環状線ができた。働く人は便利な交通機関を使おうと思う。L R Tの整備にあたり、トランジットセンターをつくり、乗用車の確保はできると思うが、市民がL R Tに乗るための教育が必要だと思う。

市民への教育を行っていただきたい。理解出来ていない部分が非常に多かったでするので、せっかく良いシステムをつくるのだから、私達が協力できる内容をつくっていかないと「モノ」をつくっただけでは機能しないので、よろしく願いしたい。

回 答	所管課：L R T整備室，交通政策課
------------	---------------------------

【市長】

御提案のとおりであり、車の量が多すぎて交通渋滞を生んでいる状況である。

特にJR宇都宮駅から駅東側は、20年間、朝・夕、毎日渋滞が生じている。

渋滞は道路を整備したり、橋を何本か掛ければ解決するのではないかという意見もあるが、道路や橋を何本つくっても車の量は結局同じであり、車が多すぎることが渋滞を起こしている原因となっている。

そこで、車を降りてその駐車場から公共交通に乗り換えることができるパークアンドライド、これが必要になってくるが、宇都宮の場合は、駅東側のLRT整備にあたり、パークアンドライド駐車場を5か所つくり、企業が持ち合わせている駐車場も活用して乗り換えをしていただく、つまり、車から公共交通に転換をしていただくことが必要になってくる。今御指摘の中で、「教育をすべきだ」という話があった。公共交通に転換をしていただくという意識をこれから徐々に持っていただかないと車の量は減らない、CO2も減らなくなってしまう。ちなみに宇都宮のCO2の排出量は県庁所在地の中で、全国で2番目に多い。

自動車免許の取得率と車の保有台数が全国的にずば抜けて高いということが原因の1つと言われているが、公共交通が充実していないから車で移動せざるを得ない、「公共交通を使え」と言われても、「公共交通が無いから行けない」となってしまう。

そこで、公共交通ネットワークの形成に急いで取り組んでいるが、まずは公共交通を利用していただくという啓発活動を行政主体で行っていきたいと思う。車の運転が出来なくなってから、「さぎそう河内号」「ユッピー号」や路線バスに乗ろうと思っても、公共交通の利用を習慣とすることにすぐに切り替えることができないので、車の運転が出来るうちに、週に1回や2回は公共交通だけで移動する習慣をつけていただきたい。

東京の人達に出来て我々に出来ないわけではないので、今、御提案いただいた取組をしていきたいと思う。

発言 4 河内地域自治センターへのATMとポストの設置について

このたび素晴らしい地域自治センターができたが、以前の地域自治センターには銀行ATMと郵便ポストがあったが、新しい地域自治センターになってからは無くなってしまい、地域住民の間では非常に不便だという話があるので、地域自治センターに是非設置して欲しい。

回答 所管課：自治振興課

【市長】

公共施設をつくる時には、市の方針として、まず、地域の皆様の意見を聞きながら、それを参考に地域の皆様の了承をいただきながら進めている。

河内地域自治センターも建設するにあたり、様々な御意見をいただいたが、郵便ポストや銀行ATMなどの設置の要望をいただいた。

そこで、市としても、郵便ポストや銀行のATMを移動していただきたいと正式に申し入れをしたが、利用率が芳しくないという理由と地域自治センターの近くのコンビニにはATM等があるのでそちらを活用していただきたいという回答をいただいた。

今後、状況も変わっていくだろうから、折を見て郵便局や銀行には働きかけを行っていききたい。

発言 5 河内地域自治センター跡地の利活用について

河内地区はシニア世代の文化関係の活動が盛んな地域だと思う。このたび、河内地域自治センターを立派な施設としてつくっていただいたので、当地区以外からも利用の申込が多い。そこで、会場を借りるのが大変だという話をよく聞く。

そこで、旧河内地域自治センターを修理して再利用出来ないだろうか。壁など、ひび割れが入っているところもあり、多少問題があるかもしれないが、修理して再利用することができないだろうか。

回答 所管課：自治振興課

【市長】

施設を建設する時には、地域の皆様や、自治会等の御意見をいただくとともに委員会も設置して、河内地域自治センターを建設したところである。

建設の際には、旧地域自治センターをどうするかという議論も行ってきた。結果、旧センターは廃止ということになり、売却するという結論になった。近々、民間業者が入札、取得し、その後どうするかという話が出てくると思う。

市としては、再利用は行わない状況であるので、他の施設も上手く活用していただきながら、特にこの新しい地域自治センターを十分に活用していただきたい。

発言 6 防犯灯設置，市施設照明のLED化について

防犯灯のLED化について、61基全部をLED申請したが、これは自治会を最優先して行っていくという市の政策なのか。

市が管理する街路灯や公園などのLED化の進捗状況はどうなのか。

市が管理している市道があるが、防犯灯にしてよいのか、それとも街路灯として設置条件があるのか教えていただきたい。

回答 所管課：生活安心課，道路保全課

【市長】

防犯灯は自治会に管理をしていただいているが、防犯灯については、地域の事情によってLED化を進めていただいている。まだまだ電球の寿命があるので、LEDに

はまだ移行しないという地域もある。また、すぐにLEDに変えて、明るさの追求と耐久性、環境保護に貢献したいという地区もあるので、要望に出来るだけ応えていけるように予算を組み、予算が足りなくなれば、補正予算を組んで、対応できるようにしている。自治会が待たずにすぐにLEDに移行できるように優先化を図っている。

また、大きな道路は街路灯となり、街路灯設置の明確な基準がある。その基準については、詳しくは所管課から連絡をして説明をさせていただきたい。

発言 6 防犯灯設置，市管理照明のLED化について（再質問）

公園の照明のLED化の進捗状況はどのくらいか。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

公園のLED化についても予算を付けて、老朽している電球などについてはLEDへの交換をできるかぎり進めているが、進捗状況については、街路灯の設置基準と併せて報告をさせていただく。

発言 7 体育館のエアコン設置について

先日、婦人バレーボール大会があり、体育館にはエアコンがないので、窓を開けるとカーテンが揺れて日差しが入るとボールが見えにくいので、カーテンをして行っている。また夏もカーテンをして練習や大会を行っているので、エアコンの設置を考えていただきたい。窓も上の方にしかなく、風が入って来ないので、ぜひ考えていただきたい。

回答 所管課：学校管理課，スポーツ振興課

【市長】

婦人バレーボール大会には、出席させていただき、確か、大会が行われたのは、小学校の体育館だったと思う。エアコンについては、まず市の小学校、中学校を優先するという事での市の全ての小・中学校93校の普通教室全てに設置をしてきた。

清原、雀宮などの市の体育館はまだ未整備状態になっている。将来的に必要なと思うので、時間が掛かるかと思うが、徐々に進めていきたいと思う。